

タイトル	教師の専門性を生かす「一部教科担任制」の取り組み
名称（学校・地域）	阿南町立和合小学校
日時・場所等	通年
ホームページアドレス	http://wagosc.eek.jp/home/

複式指導って、どうすればいいの？

・・・そうだ！得意な教科を受け持って授業しよう！

本校は今年度も、全校児童が9名（1年1名、2年1名、3年2名、4年1名、5年1名、6年生3名）という極少人数なので、連学年ごとの組み合わせによる複式学級を編成しています。そして3人の担任がそれぞれのクラスで複式指導を行うのですが、実際の授業では、理科・社会・家庭科で、学年ごとの学習内容の違いが大きかったり、教材研究から授業準備までの時間を確保することが大変だったりするという課題が生まれました。そこで、全職員で対策を話し合い、上の3教科について、学級担任の枠を超えて、それぞれの教科の免許を持っている職員が専門的に受け持つという、教科担任制に取り組むことになりました。

先生たちの「得意」を生かした実践

【社会:週2～3時間】

3・4年生は、複式にしないで3年生と4年生を別々に教えるようにしました。社会科の免許を持っている教師（1・2年担任）が3年生を受け持ち、3・4年生の担任は4年生を受け持って、週3時間分の授業を同じ時間に別々の場所で行うようにしました。その時間、1・2年生の補充には教頭が入るようにしました。



【理科:週3時間】

理科の免許を持っている教師（5・6年担任）が、3・4年と5・6年の両クラスを受け持ちました。連学年の学習内容を、系統性に配慮しながら組み合わせたり、別々にしたりしながら、複式指導や合同指導をしました。この時間に3・4年の担任は、5・6年生の家庭科を受け持つようにしました。こうやってお互いに授業を交換して専科として受け持つことで、教材研究の時間が短縮され、空き時間も確保されました。



【家庭科:週2時間】

家庭科の免許を持っている教師（3・4年担任）が受け持ちました。5・6年生が家庭科をしている時間に3・4年生は理科をするようにして、各クラスの担任が入れ替わって授業を行います。学習内容は学年によって違いがあるため、5年生の履修内容をA、6年生をBとして、今年度はBを扱うようにしました。



< 成果 >

- ・授業を受け持つ教師が、それぞれの教科について専門性を高めようと自己研鑽を図りました。
- ・授業の専門性が高まったため、授業の質が向上し、子どもたちの意欲も高まりました。その成果として、不登校傾向の児童が授業を楽しみにして登校することがありました。
- ・働き方改革の一環として、勤務時間の短縮と質の高い授業の実現ができつつあると感じています。